

教育・研究などへの取組状況（令和7年度）

総合工学システム学 科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
教授	土井智晴

項目	取組状況
教 育	<p>◆担当科目：総合工学システム概論（1年）、総合工学実験実習（1年）、工学基礎実習（2I）、PBL2（4年）、卒業研究（5H）、防災リテラシー（夏期集中講座）、総合課題実習1（2~3年）、総合課題実習2（3~4年）、工学システム実験実習（F2）</p> <p>◆担当科目の取組状況（工夫・改善した点）：新科目 PBL2 の担当教員として外部企業の窓口教員を担当した。</p> <p>◆特記すべき教育方法の実践例：新科目 PBL2 の企業連携を通じたアントレプレナーシップ教育の実践として本科目の内容を計測自動制御学会の SI 部門講演会にて成果公開を行った。</p>
研 究	<p>◆論文：Enhancing STEAM Education Through a “Know-and-Create” Learning Loop: A Case Study of a Generative AI Workshop on Art at Osaka Metropolitan University College of Technology, Journal of Robotics and Mechatronics, 38, 88-102, 2026</p> <p>◆論文：公大高専における知能情報・エレクトロニクス コースの混成クラスによる DX 教育, 日本高専学会誌 31(1) 1-6 2026 年1月</p> <p>◆特許：防護装備：出願 2022-038165, 登録 No.783368</p> <p>◆学会発表：大阪公立大学高専におけるアントレプレナーシップの育成とそれを育む PBL 等のカリキュラム紹介、計測自動制御学会 SI2025</p> <p>◆共同研究：基盤 B・分担 脳卒中失語症者の社会性回復を目指した communion の実装</p> <p>◆科研費申請：基盤 C・代表 フィジカル AI 時代に資する情報系学生の段階的ロボティクス教育</p>
社会貢献	<p>◆国際貢献：JICA 専門家 エジプト日本高専プロジェクト RME トラックのカリキュラム開発を支援、 2026 年 1 月 訪日研修を大阪公立大学高専受入時の窓口教員 2026 年 3 月 エジプト日本高専（カイロ）現地にて実地指導</p> <p>◆学会活動：日本機械学会関西支部 商議委員</p> <p>◆特記すべき社会貢献：毎朝 YouTube 配信 マイコンプログラム開発/AI 関連技術の配信</p>

<記入上の注意> ※可能な限り 1 ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況（令和6年度）

総合工学システム学 科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
教授	土井智晴

項目	取組状況
教 育	<p>◆担当科目：総合工学システム概論（1年）、総合工学実験実習（1年）、工学基礎実習（2I）、基礎研究（4H）、電子機械工学実験Ⅰ（4H）、卒業研究（5H）、防災リテラシー（夏期集中講座）、総合課題実習1（2~3年）、総合課題実習2（3~4年）、工学システム実験実習（F2）</p> <p>◆担当科目の取組状況（工夫・改善した点）：新しく始まった総合課題実習2（3~4年）の課外実習「寝屋川キャンパスをアーカイブせよ」を企画立案し、履修した学生がキャンパス内を撮影した360度画像をバーチャル空間上に表示するUnityプログラムを開発し、学内発表を行った。</p> <p>◆特記すべき教育方法の実践例：工学システム実験実習（F2）では、神戸市消防局と連携し天井温度を赤外線で計測し、活動姿勢に関わらず鉛直上方の天井温度を計測する資機材の開発を指導した。開発した装置が推定した姿勢の角度をモーションキャプチャによる絶対位置により検証し、推定の正しさを確認した。また、消防隊員とともに実証実験も行った。</p> <p>◆学生の受賞 卒研として指導している卒研究生、日本ロボット学会にてポスター発表を行い、優秀賞をした。また、顧問を務めるろぼっと倶楽部が2年連続の全国大会制覇を達成した。</p>
研 究	<p>◆学会発表：土井、藪、中津、安藤：大阪公立大学高専とGDX研究会による工学系学生の共育：計測自動制御学会 SI2024 講演会, 1E1-01</p> <p>◆学会発表：東田、谷口、金田、土井：大阪公立大学高専における知能情報・エレクトロニクスコースのDX教育の実践、第30回日本高専学会 年会講演会 A3-2（2024.9）</p> <p>◆共同研究 フードテクノエンジニアリング株式会社</p> <p>◆科研費申請 基盤C:代表 消防隊員を見守り支援するヒートチェッカの研究開発 基盤C:分担 MDASH 応用基礎レベルを想定したAI技術演習教材の開発</p>
社会貢献	<p>◆本校産学連携推進会 技術実践セミナー：AI入門講座：機械学習の体験</p> <p>◆学協会等の活動：日本高専学会 理事、国際レスキューシステム研究機構 理事</p> <p>◆特記すべき社会貢献：レスキューロボットコンテストの企画運営、毎朝YouTube配信</p>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載

教育・研究などへの取組状況（令和5年度）

総合工学システム学科	系・コース
	知能情報コース
職階	氏名
教授	土井智晴

項目	取組状況
教 育	<p>◆担当科目：総合工学システム概論（1年）、総合工学実験実習（1年）、工学基礎実習（2I）、基礎研究（4H）、電子機械工学実験I（4H）、卒業研究（5H）、防災リテラシー（夏期集中講座）、総合課題実習1（2~3年）</p> <p>◆担当科目の取組状況（工夫・改善した点）：工学基礎実習(2I)は新しく始まる実験であり、IoT機器を構築する6週展開テーマの企画立案実施を行った。総合課題実習1(2~3年)も新しく始まる課外実習「情報処理系の体験型イベントへの参加経験による総合能力の獲得」を企画立案した。</p> <p>◆特記すべき教育方法の実践例：工学基礎実習(2I)では、太陽光発電システムの教材を開発し、太陽光発電の仕組みを学び、発電電力を計測し、30秒毎に1週間連続自動計測してクラウド上にデータ蓄積する流れを体験させた。3~4名が1班となり自ら課題設定し太陽電池パネル設置角度変化等による発電量変化を考察するPBL実験を企画立案実施した。</p> <p>◆学生の受賞 卒研として指導している卒研究生、顧問をしている福祉科学研究所とろぼっと倶楽部の3チームが第8回廃炉創造ロボコンに出場し全チーム受賞した。なお、福祉科学研究所はイノベーション賞を受賞し、連続受賞となった。</p>
研 究	<p>◆紀要 土井、君家、田村、安藤、山野：DXマインドの気付きと動機を与える1年総合工学システム実験実習、本校研究紀要57巻, p.17-20(2023)</p> <p>◆学会発表 土井、安藤、君家、中田：DXマインド育成事業関連科目：総合工学システム概論の実践報告、第29回日本高専学会年会講演会、B1-1(2023)／大坪、土井、松山：自律走行草刈り機の移動プログラムの作成、第29回日本高専学会年会講演会、PM-6(2023)</p> <p>◆共同研究（1社） フードテクノエンジニアリング株式会社</p> <p>◆科研費申請 基盤C:代表 消防隊員を見守り支援するヒートチェッカの研究開発、基盤C:分担 MDASH応用基礎レベルを想定したAI技術演習教材の開発</p>
社会貢献	<p>◆公開講座：VR（仮想空間）体験教室（中学生対象・対面開催）</p> <p>◆学協会等の活動：日本高専学会 理事、国際レスキューシステム研究機構 理事</p> <p>◆特記すべき社会貢献：レスキューロボットコンテストの企画運営、毎朝YouTube配信</p>

<記入上の注意> ※可能な限り1ページ/年度にまとめてください。

教育：該当年度の担当科目，担当科目の取組状況（工夫・改善した点）などを記載。

研究：該当年度の研究テーマ，学外発表実績，外部資金獲得状況，共同研究などを記載

社会貢献：該当年度の公開授業，出前授業，学協会活動などを記載